≪報告書≫

第５回　協働を考えるシンポジウム

参加と協働のまちづくり

～三鷹市の事例から～

日時：平成２６年２月１７日（月）

午後２時～４時３０分

場所：西東京市役所保谷庁舎４階研修室

主催：西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ

目　次

１．プログラム　・・・・1

２．本事業の目的と概要　・・・・2

３．基調講演・基調講演レジュメ　・・・・3

４．パネルディスカッションの発言要旨　・・・・6

５．パネルディスカッションレジュメ　・・・・9

６．シンポジウムの模様　・・・・11

７．アンケート結果（抜粋）　・・・・12

（別紙）案内チラシ

プログラム

第１部

１．開会・主催者挨拶（午後２時～）

西東京市市民協働推進センター　　センター長　内田雅俊

２．基調講演　（午後２時５分～）

「協働と市民力」　　ＮＰＯ法人みたか市民協働ネットワーク　　代表理事　　正満たつる子氏

参加と協働の先進自治体といわれる三鷹市ではどのように市民力を引き出し、参加と協働のまちづくりを推進してきたのか、その取組み事例を交えて、発表いただきます。

休　憩（午後２時４５分～）

第２部

３．パネルディスカッション（午後２時５５分～）

基調講演をもとに、参加と協働のまちづくりについてディスカッションします。

◆コーディネーター◆

正満たつる子氏　　ＮＰＯ法人みたか市民協働ネットワーク　代表理事

市とのパートナーシップを締結し、三機能、つなぐ（協働）・ささえる（支援）・つむぎだす（参画）の機能が有意義に広がるよう活動をしています。高い志のもとこれからの民・学・産・公による協働アクションに取り組んでいます。

◆パネリスト◆

四柳千夏子氏　　みたかスクール・コミュニティ・サポートネット　代表

三鷹市では義務教育９年間の確かな学力と子ども達の豊かな成長を保証するため「小・中一貫教育」と地域が学校運営に参画する「コミュニティ・スクール」をいち早く取り入れ実践しています。学校支援・学習支援・地域防災教育などの活動を、おかあちゃんが創るこどもたちの未来へのかけはしを理念とし活動しています。

小松真弓氏　　ＮＰＯ法人子どもアミーゴ西東京　事務局長

さまざまな世代の市民による主体的な参画に基づき、地域社会に見られる子どもを取り巻く諸問題を解決するために必要な放課後健全育成事業、子育て支援事業等の諸活動を行い、すべての子どもが持つ権利を保障し、安全、安心に暮らせる社会の実現をめざし活動しています。

鈴木一秋氏　　西東京青年会議所　直前理事長

「明るい豊かな社会の実現」を理想とし、責任感と情熱をもった 20 歳から 40 歳までの青年が集い、修練・奉仕・友情という三信条のもと、行政へのまちづくり提言や市民参加型事業の創造、青少年育成の活動や諸団体との交流等、多岐に渡る活動を通じて地域の課題に積極的に取り組んでいます。

浜名幹男氏　　西東京市生活文化スポーツ部協働コミュニティ課　課長

西東京市では、市民がまちを支え、自分たちのまちを創っていくという市民主体のまちづくりを推進しており、市民自らによるまちづくり活動への支援や、市民活動団体・企業・大学・行政などが協働する仕組みづくりなどを進めています。

４．閉会挨拶終了（午後４時３０分）

１．本事業の目的と概要

1.1　開催概要

◆日　時　　2014 年 2 月 17 日（月）14 時～16 時 30 分

◆会　場　　西東京市保谷庁舎４階研修室

◆プログラム

開会挨拶：内田　雅俊センター長

第１部　基調講演：正満　たつる子氏（NPO 法人みたか市民協働ネットワーク代表理事）

演　題　　『参加と協働のまちづくり』

第２部　パネルディスカッション

コーディネーター　正満たつる子さん

パネリスト　　①NPO・市民活動団体

みたかスクール・コミュニティ・サポートネット代表　四柳千夏子さん

②NPO・市民活動団体

NPO 法人子どもアミーゴ西東京事務局長　小松真弓さん

③企業

西東京青年会議所直前理事長　鈴木一秋さん

④行政（西東京市役所）

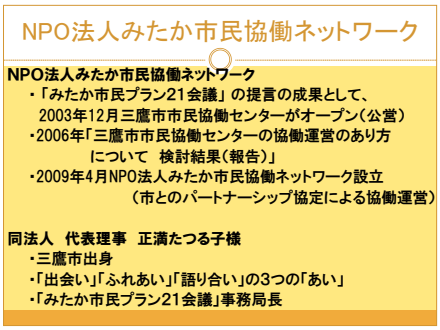
生活文化スポーツ部協働コミュニティ課長　浜名幹男さん

1.2　目的

市民協働推進センターでは、協働について行政、市民や様々な関係者の理解と認識を深めるため、事業のひとつである『協働を考えるシンポジウム』を毎年開催している。

過去実施されたテーマは、第１回「市民と共につくる協働に向けて」、第２回「市民とともに、協働のまちづくりを」、第３回「市民の力で協働のまちづくりを」、第４回「協働の未来を語る」でした。第５回目となる今年度のシンポジウムでは、『参加と協働のまちづくり～協働と市民力～』と題して行った。一部の基調講演は、三鷹市においてはどのように市民力を引き出し、協働のまちづくりを展開してきたのか、協働への取組み事例を交えて発表いただき、『参加と協働のまちづくり』がどのようなものなのかを学んだ。

二部のパネルディスカッションでは、三鷹市の市民活動団体の方にも参加いただき、基調講演を基に協働のイメージや情報を共有するとともに、西東京市における今後一層の協働の推進を図るためのヒントを得るための意見交換を行った。



1.3　参加者数

一般参加 15 名　・　行政職員参加（近隣市含む）24 名　・　合　計 39 名

３．基調講演

第１部：基調講演

「参加と協働のまちづくり～三鷹市の事例から～」

正満　たつる子（NPO 法人みたか市民協働ネットワーク代表理事）

～三鷹市の基本市政である市民参加と協働の取組み、三鷹市の挑戦～

私の考える本当の意味の市民参加は、出会い・ふれあい・語り合いの３つのあいが信条です。この３つのあいが、今日の三鷹市のまちづくりに関わりを持つきっかけとなった理念であり、精神であると考えています。

・三鷹市の面積：16.50km2

・三鷹市の人口と世帯数（2014 年 2 月 1 日現在）　住民登録：180,184 人　世帯数：89,332

・年齢構成　0~14 才：22000 人、15~64 才：113,000 人、65 才以上：45,000 人

（三鷹市統計データ集より）

三鷹市市民協働センターは昨年の 12 月に 10 周年を迎えました。

三鷹市の参加と協働には入口がいくつもあります。

１つ目は、三鷹ネットワーク大学推進機構です。三鷹市と 18 の教育機関が運営しており、企業や NPO 法人などの幅広い団体を含む会員との連携を行っています。計画を策定する際には三鷹市は毎回必ずまちづくり研究所というまちづくりを総合的に考える機関を立ち上げます。それは機関であり場所ではありませんから、市長が研究所所長となり市職員と大学の先生方に入ってもらい、市長からまちづくりに関するオーダーに対しての課題をロジカルに整備し市長に答申します。ネットワーク大学推進機構ができてから、まちづくり研究所はこの機関の中に含まれます。

２つ目に、第３セクターとして設立した株式会社まちづくり三鷹です。個人とまちづくりのための場所を提供することを主としており、企業や NPO 法人なども含めた幅広い会員との連携を行っています。

３つ目は、三鷹市市民協働センターです。三鷹市は 50 年近く前から、ドイツに研修へ行った際、ドイツで行われている住民自治のあり方に感銘を受け住民協議会を立ち上げました。住民協議会は各中学校に設置されており市内に 7 つ存在します。

市は当初、各住民協議会に補助金を出し市民事務局が委託を受けて運営していましたが、経験不足や継続性が難しいこともあり、現在は市の職員が出向し事務局を運営しており、役員として市民の方達が事業や全体の運営に関して積極的に発言をしています。こういう市民参加の土台があったことにより、1999 年三鷹市民プラン 21 議会を立ち上げる事ができました。この協議会は自薦の 58 人によって提言方法について半年話し合った後、市長への提言書をとりまとめ解散することになりました。評価できる住民活動であっても長い間には個人のカラーが強くなることがあり、時代のニーズによって建設的に変わっていくことを受け入れていくことも大事という考えをもって住民会議を解散し、まちづくり研究所を発足させる運びとなりました。三鷹市の政策をつくるときは一度まちづくり研究所という機関へ投げかけロジカルに課題を整理し市へ答申するシステムです。今までオブザーバーとして市民が参加することはありましたが、構成員として参加することはなく、2002 年になって初めて市民研究員が参加し、協働型の社会のあり方について議論を重ねた結果 2003 年に三鷹市市民協働センターの開館へ漕ぎつけました。この時、パートナーシップ協定をもって市民が運営するのが理想的ではありましたが、皆さんそれぞれ違うところで活動している市民だったこともあり、スタート時は公設公営でスタートすることとなりました。

翌年市長から委任され、私達が目指している協働運営のあり方を具体的に話し合うために企画運営委員会

が設置されました。市民研究員として活動していた方、住民協議会の方、自治会の方、ＮＰＯ活動をしている方、さらに公募の方達と市の職員で委員会活動が月一回以上行われました。

2005 年の１周年記念事業シンポジウムでは、情報を共有して組織作りをしていく傾向が強いと感じ、外部からの評価を得ているパネリストを招き開催しました。

このころには市民活動の基礎となる印刷機、作業スペースの確保も行うことができ、三鷹市では自治基本条例が制定され、それに先駆け市職員が職員向けの協働のハンドブックを作成し、企画運営委員会は市民のためのハンドブックを発行しました。

センターの開館から三度にわたって協働運営に関する提案書を企画運営委員会から提出することもでき、スタートしてから６年目にＮＰＯ法人三鷹市民協働ネットワークに衣替えし、市民活動に関わりの深い市民の方もスタッフの一員としてサポートしてもらっています。設立と同時に事業・企画・実施を行うための運営協議会を設置し、利用者を対象に説明会を実施しました。センターは、つなぐ・支える・つむぎだすという３つの大きな機能を持っています。毎回新しい組織の方が登録をされますし、個人の方達にも参加いただき繋がることを大切にしたいと考えています。

センターの 10 周年を迎え利用者に聴取しましたが、協働センターに望むことはアドバイスや専門性の高いシンクタンクみたいなものとしてほしいと言う意見がありました。まちづくりというのは、自分の暮らしに関わる事が大きいです。傍観者であった自分がいつの間にか参加者になっているという姿が素敵だしそうありたいと自分に言い聞かせて活動を続けています。

つなぐ（協働）

利用者懇談会

利用者懇談会

シンポジウム

みたか市民活動・NPOフォーラム

来場者による手作りのクリスマス・カードを矢吹町へ（平成23年11月）

トークサロン

新春市民交流会

がんばる地域応援プロジェクトの実施支援事業（受託事業）

花壇の花植え（生ごみを土に返して活かす会）

インターンシップの受入れ

中学生　職場体験受入れ
（第一中学校 ・ 明星学園中学校）

日米の子どもたちによる国際交流絵画展

ささえる（支援）

＜環境整備＞
市民活動推進コーナー・パソコンミーティングルーム・ワークサロン

相談事業
（NPO法人設立・運営など）

＜講座＞
知って得する！NPO法人の会計

＜講座＞
地域安全マップづくり講習会

＜講座＞
コミュニティリーダーズカフェ

＜インキュベーション機能＞
おやこひろば

つむぎだす（参画）

パブリックコメント
行政資料など

みたかまちづくりディスカッション2006
（平成18年8月）

基本計画改訂に向けた
まちづくりディスカッション
（平成19年10月）

東京外かく環状道路中央ジャンクション
三鷹地区検討会
（平成20年8月、9月）

第4次基本計画策定に向けた
「みたかまちづくりディスカッション」
（平成23年10月）

みたか防災まちづくりディスカッション
（平成24年）

３．パネルディスカッションの発言要旨

第２部：パネルディスカッション

コーディネーター　正満　たつる子さん
（NPO 法人みたか市民協働ネットワーク　代表理事）
パネリスト　四柳　千夏子さん（みたかスクール・コミュニティ・サポートネット　代表）
小松　真弓さん（ＮＰＯ法人子どもアミーゴ西東京　事務局長）
鈴木　一秋さん（西東京青年会議所　直前理事長）
浜名　幹男さん（西東京市生活文化スポーツ部協働コミュニティ課　課長）

発言要旨：四柳　千夏子さん

団体概要紹介		1・設立目的 「コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育」を実践している第四中学校区（三鷹中央学園）の子どもたちのためになることを、自分たちのできる範囲でやりながら、子どもたちの未来のために学校や地域とのかけはしになることを主な目的とする。 2・設立年月日　平成 23 年 4 月 3・役員数・会員数　役員 3 名　会員（スタッフ）14 名 4・主な活動地域　三鷹中央学園（三鷹市立第三小学校、第七小学校、第四中学校） 5・年間収支・利用者数（任意回答）
協働事例紹介	きっかけ	1・協働事業名　地域防災への取組 2・協働団体名（産・学・公） 三鷹中央学園（特に三鷹市立第四中学校）・三鷹中央学園コミュニティ・スクール委員会 駅前周辺地区自主防災連合会・三鷹市防災課、三鷹消防署　ほか
	取組内容	・防災に関する自主勉強会（平成 23 年度 9 月～） ・「もしものときのハンドブックｉｎみたかちゅうおう」作成（平成 23 年度、24 年度事業） ・「3.11 地域防災を考える日ｉｎみたかちゅうおう」開催（平成 23 年度事業） ・防災テキスト「カンガエル地域防災」作成（平成 24 年度事業） ・第四中学校にて初の座学による防災授業（平成 24 年度事業） ・防災に関する自主勉強会「仮設トイレ組立・解体、担架搬送、初期消火」（平成 25 年度事業） ・第四中学校での防災授業「仮説トイレ組立（2 年生）、解体（1 年生）」（総合的な学習の時間） ・三鷹市総合防災訓練への参加（平成 25 年 11 月 4 日）
成果		◎「自分の命を守り、周りの人の命を助けることのできる人材の育成」という目的を学校と共有し、作成した防災テキストを授業に取り入れてもらい、中学生に対して防災授業を行えた。 ◎自主防災組織や行政と連携し、市の防災訓練に参画できた。 ◎防災について自分たちの学んだことを、学校・保護者・地域に広く伝えることができ、「子どもたちの命を守り、地域を守る」というテーマで人々の関心を惹起し、つなぐことができた。
課題		●継続的に取組むための財源確保 ●行政関係機関との更なる連携

参加と協働実現・推進するために期待すること	・私たちは日頃、学校（＝学区域）を活動のフィールドとしており、フツーのお母さん仲間が集い「子どもたちのために何かできることを出来る範囲で」という理念で学校ボランティアなどをしています。今回は「防災」をテーマに様々な取組をしました。つまり学区域という「地域コミュニティ」と、防災という「テーマコミュニティ」を融合した形で取り組めたことで、学校やＰＴＡなどの理解と協力を得ることができた、と感じています。まずは身近なテーマで身近な人々が集い、アクションを起こせばその輪が草の根で広がっていきます。 ・そういった草の根レベルの市民活動を後押しするのは行政のバックアップ。まずは「何かをしたいけどどこに相談してどう進めたらいいのかわからない」という、スタート地点に立とうとしている人たちの相談窓口としての機能が求められます。 ・私たちが防災について学び始めたとき、三鷹市防災課にアドバイスをもらったり、三鷹市市民協働センターで行われた「防災まちづくりディスカッション」に関わらせていただいたりしました。仕事の枠を超えて私たちに惜しみなく協力してくださった市の職員の方の存在が本当に心強かったです。機会や情報の提供など、市民と行政、という立場としても勿論ですが、それを超えた人間と人間のつながりの中での理解や「ガンバレ！」という応援が市民活動のモチベーションになります。 ・さらにそこに補助金や助成金といった公的な資金面の援助があれば活動が継続、発展していきます。

発言要旨：小松　真弓さん

団体概要紹介		1・設立目的　こどもの健全育成及び、まちづくり 2・設立年月日 2006 年 6 月　　3・役員数・会員数　80 名 4・主な活動地域　西東京　　5・年間収支・利用者数（任意回答）
協働事例紹介	きっかけ	1・協働事業名　　学童クラブ、児童センター受託内での震災支援事業 2・協働団体名（産・学・公）　西東京市　東久留米市自由学園　多摩六都科学館ほか
	取組内容	震災後、原発事故後の影響で外でのあそびが制限されている、福島県いわき市の学童クラブの児童の支援 初年度　放射能の影響を避けることを考え東京にインバイトするなど。 ひばりが丘児童センターで思いっきり遊んでもらう。 西東京市内で、関わりを持つ人や、団体をつなげていく。
成果		アミーゴが運営している学童の児童や保護者、センターに来ている中高生、また、西東京市役所、多摩六都科学館、東久留米市の自由学園、中原小学校 PTA のオヤジの会など、ひばりが丘児童センターを居場所として地域の市をまたいでの、異業種さんたちが特性を生かして参画できた。
課題		事業費

発言要旨：鈴木　一秋さん

<table>
<tr><td colspan="2">団体概要紹　　介</td><td>1・設立目的　田無青年会議所と保谷青年会議所は、各々の市が健全な都市となるには両市の合併が不可欠であると考え、行政合併を推進すべく、1990 年より様々な運動を行ってきました。
その結果、2001 年 1 月を目標として法定協議会が設置されましたが、市民の合併に対する関心は決して高くはありませんでした。
そこで両青年会議所は、変革の能動者として合併に対する気運を高めるため、そして新しいまちのビジョンを明確にし、明るい豊かな社会を築き上げるため、新しい青年会議所の設立を決意し、行政合併に先駆け 2000 年に（仮称）田無保谷青年会議所（現西東京青年会議所）が誕生しました。
2・設立年月日 2000 年　　3・役員数 8 名・会員数 34 名
4・主な活動地域　西東京市　東京都　　5・年間収支・利用者数（任意回答）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">協働事例紹介</td><td>きっかけ</td><td>1・協働事業名　　避難所あれこれ体験～備えあれば被害なし！～（H25.10.20）
2・協働団体名（産・学・公）
主催：西東京青年会議所
後援：西東京市　西東京市教育委員会
協力：西東京市立保谷小学校　西東京消防署　日本赤十字社　西東京市危機管理室　西東京市社会福祉協議会　ゆめこらぼ　スマイル大学</td></tr>
<tr><td>取組内容</td><td>・避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）　・炊き出し体験　・消火体験　・応急救護体験　・防災クイズラリー　・手作り食器体験　・油ランプ体験　・避難所グッズの展示　・避難所パーテーションの展示　・基調講演（未来大学　石阪督規先生による）　　他</td></tr>
<tr><td colspan="2">成　　果</td><td>〇HUG では皆最初は戸惑いながらも、しばらくすると積極的に配置について意見を出していた。
災害時のシュミレーションを経て、いざという時の自主的な活動の為の経験値となったと思う。
〇救護での応急処置の講習は、皆真剣に聞き入り、率先して実技練習に加わっていた。
これも皆の自主性に大きなプラスとなったと思う。
〇子供達にもぬいぐるみを助けるゲームや、紙芝居で分かりやすくお話しする事で、
今のうちから自らの手で防災にあたる意識を植え付ける事が出来たのではないかと思う。
〇パーテーションを設置することにより､大きな空間にあってもプライベートな空間が設置でき避難所であっても個の時間を持って落ち着ける事を感じてもらえたと思う。</td></tr>
<tr><td colspan="2">課　　題</td><td>・参加者に高齢者の方が多かったが、広い世代に参加して欲しかった。
・防災意識を高め、イザという時の備えにもなるこの企画は本来継続的に行いたい内容だが、次回どこがやるかは決まっていない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">参加と協働実現・推進するために期待すること</td><td>以前は、近所付合いから、町会、自治会等地域の人とひとをつなぐセンテンスが多くあったと思います。西東京市に限る事ではないかもしれませんが、人口の増加や、移り住む方も多く地域のコミュニケーションが希薄化しているように思えます。生まれ育った我がまちの愛着を持ち、人とひとが繋がり合い支え合い、思いやりのある地域が出来る事が、日本を本来の心豊かな国にすると思います。日本が豊かになれば、自ずと世界の平和にも繋がります。
一市民が地域について話し合うような、地域コミュニティが栄える仕組みづくりをすることが、今の現代には必要と考えています。</td></tr>
</table>

４．パネルディスカッションレジュメ

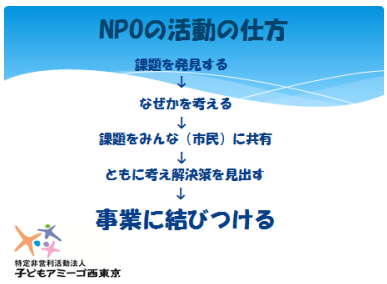
みたかスクール・コミュニティ・サポートネット

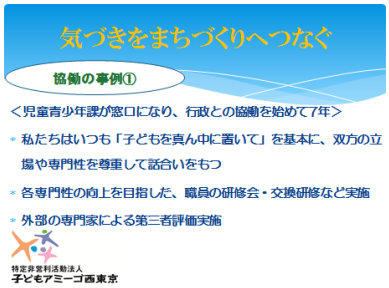
東京都のほぼ真ん中にある三鷹市。地域が学校運営に参画する「コミュニティ・スクール」をいち早く取り入れ、市内全ての公立小中学校で実践しています。平成２３年４月に任意団体「みたかスクール・コミュニティ・サポートネット」を立ち上げました。メンバーは、全員が学園内小中学校 PTA の役員経験者であり、小中学校の放課後の子どもの居場所事業の運営経験者ですが、基本はフツーのお母さん。

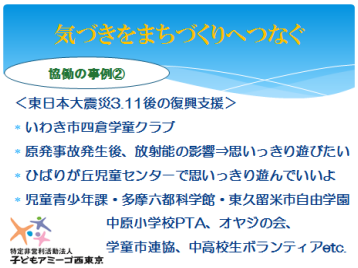
何より「子どもたちのために自分たちにできることをやってみよう！」という志は人一倍熱い！

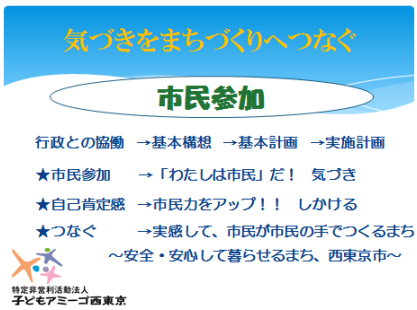
昨年度は、三鷹市総合防災訓練に協力したところ、従来の防災訓練に比べ若い父親、母親が参加して活性化した訓練ができ、学校を中心とした地域ネットワークづくりに貢献することができた。

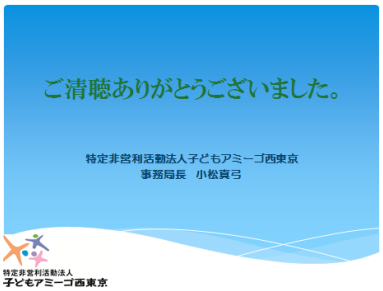
ＮＰＯ法人子どもアミーゴ西東京











西東京青年会議所

西東京青年会議所
のご紹介
青年会議所
とは？
東京に24ヶ所
※近辺では武蔵野、小金井、三鷹
東久留米、清瀬、小平・・・
日本中に約700ヶ所
世界中の110ヵ国が加盟
世界の平和のために連携
世界共通のルール
年齢制限
20歳から40歳までの
品格ある
青年経済人であること
のみ
日本の青年会議所誕生の
背景に・・・
戦後の荒廃の中から経済再建の使命に燃えた
祖国を愛する青年の
情熱が生み出した
自然発生的な運動であった
新日本再建は我々青年の仕事である
三信条
トレーニング（個人の修練）
サービス（社会への奉仕）
フレンドシップ（世界との友情）
明るい豊かな社会の実現
1949年（65年前）
戦後間もないころ
東京青年会議所が誕生
その後・・・
1973年（41年前）
保谷市には保谷青年会議所
1983年（31年前）
田無市には田無青年会議所
が誕生する
田無青年会議所と保谷青年会議所は
各々の市が健全な都市となるには両市
の合併が不可欠であると考え
行政合併を推進すべく、１９９０年より様々な運動を行ってきました。
その結果、２００１年１月を目標として
法定協議会が設置されましたが・・・
市民の合併に対する
関心は
決して高くはありませんでした。
そこで・・・
2000年（14年前）
行政合併に先駆け
（仮称）田無保谷青年会議所
が誕生
後に
西東京青年会議所となる
2013年度　西東京青年会議所
事業紹介
スローガン
～人の和～
勇気の行動と　情熱の繋がりで
市民主導型社会を実現する
問題は・・・
・便利すぎる情報連絡手段
・近所付合いの減少
・人口の増加
コミュニケーションの希薄化
1月・6月
市長選挙
都議会議員選挙
立候補予定者による
公開討論会
選挙に関心を持ってほしい！！
予定者の方の
生の声を聞ける機会！！
3月
まちづくり
ワークショップ
市民で考える！！
地域に何が必要か！！
5月
わんぱく相撲
西東京場所
例年250名前後のわんぱく力士の出場
500名を超える保護者の皆様
で賑わいます
礼儀作法、道徳心
勝負の汗と涙
思いやり
青少年育成から・・・
市民参加型
まちづくり事業へ
中学生ボランティアの皆様
地域一般ボランティアの皆様
市内郵便局の皆様
出場記念の手形
西東京消防署の皆様
救護所・AED体験
早稲田大学相撲部の皆様
実技指導、記念の体当たり
書人　龍さん
インスピレーションを書道にて
西東京商工会青年部の皆様
スーパーボール、ヨーヨーすくい
10月
避難所あれこれ体験
～備えあれば被害なし！～
市民主導＝
参加者がプレイヤーに！
市民参画・
体験型事業
東京未来大学　石阪先生　基調講演
「災害時における避難生活について」
～人を助け、人に助けられる地域を目指して～
西東京市市民協働推進センター
ゆめこらぼ様のご協力
「避難所運営ゲーム(HUG)」体験
西東京市危機管理室様のご協力
「簡易組み立て式生活スペース」体験
社会福祉協議会様のご協力
「簡易組み立て式生活スペース」体験
西東京消防署様のご協力
「応急救護・消火器」体験
赤十字奉仕団の皆様による
「炊き出し」体験
社会福祉協議会の皆様のご協力
クイズラリーで子ども達も楽しみながら
「いろんな体験」
人の和
人とひとの繋がり
まちを愛する関心層が増える
「地域コミュニティーが栄える仕組みづくりを・・・」
「自分たちのまちは自分たちでつくる」
明るい豊かな社会の実現
ご清聴ありがとうございました。

5 ．シンポジウムの模様

基調講演の様子
市民・行政職員合わせて
39 名の方が参加されました。

パネルディスカッションの様子

NPO 法人みたか
市民協働ﾈｯﾄﾜｰｸ
代表理事
正満たつる子さん

みたかｽｸｰﾙ・ｺﾐｭﾆﾃｨ・ｻﾎﾟｰﾄﾈｯﾄ
代表
四柳千夏子さん

NPO 法人子どもｱﾐｰｺﾞ
西東京
事務局長
小松真弓さん

西東京青年会議所
直前理事長
鈴木一秋さん

西東京市
協働ｺﾐｭﾆﾃｨ課
課長
浜名幹男さん・

６．アンケート結果（抜粋）

≪基調講演について≫

・市民協働に関して、年代順に説明があったため、経過がよくわかった。「つなぐ」「つむぎだす」「ささえる」を中心に説明がわかりやすかった。
・市民の意識も大切ですが、協働してまちづくりをするために市職員の意識も大切だと感じました。
・活発な活動、裾野の広さ、先進的な市であることがよく分かった。様々な分野との連携により、充実した協働が図られていると感じた。
・三鷹市は市民力もすごいが行政（市長）のリードが協力であるように思えた。
・典型的な協働の市として以前から参考にしてきた。今日の話でいろいろ苦労があり、スムーズではなかったことを垣間見た思いがします。
・三鷹市の市民参加の歴史について良くわかった。やはり長い時間をかけて丁寧に積み重ねたからこその充実した市民協働が生まれるのだと感じた。

≪パネルディスカッションについて≫

・東日本大地震以降、防災対策に対する取組が各所で行われている。行政が行う防災訓練だけではなく、それぞれの地域で行うことにより地域力の向上が図られると思う。
・お互いを知り、信頼関係を築くこと。役割分担の重要性を理解することができた。
・「つなぐ」「つむぎだす」「ささえる」をテーマに様々な視点で地域のため、行政のために活動している方々がたくさんいらっしゃる事を初めて知りました。行政に出来ない事をサポート以上に参画されている姿を見て支えられているのを非常に感じました。
・代表の方達の事例の発表がとてもわかりやすく、興味深かったです。
・各団体の方がどのような考え方で活動をしているのか基本的なことがわかってよかった。

≪全体を通してのご意見･ご感想≫

・三鷹の協働は成長期なのでしょうか。大変活発なコーディネートと実働部隊が両輪で回っているようですが、成長期中～後期になると経費の対策が大変となるのではないでしょうか。いつまで市の補助金で施策を実施できるとお考えですか。大変に楽しく良く理解できるシンポジウムでした。
・市民と協働による活動のルールを学ぶ必要があると感じた。
・国政の主人公は国民、市政の主人公は市民が協働の土台となる理念。それを意識して推進する市民活動と行政その辺がまだ手探りだと思います。
・自治会の対応に時間と人員をとられ、なかなか市民活動団体と交流する時間を作れないので、作れるよう努力してきたいと思います。
・これまであまり協働について考えたことがありませんでしたが、今回のシンポジウムは良い機会となりました。職場で取り入れられる面の検討や私自身が一市民として、何か参加できたらと感じました。機会があれば「みたかまちづくりディスカッション」の方法について詳しく知りたいと思いました。